



こんにちは

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！



お米農家の町議さんに聞きました

日本共産党のむかわ町議でもあり、お米農家として働く北村修さんにお米問題を伺いました。今回はその内容をみなさんにお伝えします。

随意契約による2千円台の“古古古米”的放出は、緊急対策としては有効ですが、問題も多いといいます。“古古古米”的前の3月に取引された備蓄米の在庫が市場に残っており、一般競争入札だったため高価格のお米です。つまり、今売られているお米は安い“古古古米”と高い備蓄米が混在しており、市場の混乱が起きています。また、“古古古米”は大手のスーパー等でしか販売されていないため、混乱を高め不安材料となっています。

さらに、備蓄米は災害時の大切な食料であり、お米の不作が2年間続いても対応できる量（100万t）を備蓄することになっています。どんどん備蓄米を放出してしまえば、いざ災害が起った時に対応できません。今年の秋にお米が豊作でも、備蓄米にまわってしまえば、またお米不足で店頭からお米が消えてしまうかも・・・。

2025年
6.15
No.1097

その対策として、新たに農林水産大臣に就いた小泉進次郎氏は「緊急輸入米で対応する」と公言しています。トランプ関税での交渉で、トランプ大統領は日本へのアメリカ米の輸出拡大を狙っています。日本の米不足を絶好のチャンスと見ているのではないかでしょうか。

6月の世論調査で、“古古古米”的対応を「評価する」と回答した人は72%に上り、3割を切っていた石破政権の支持率もほんの少し回復しました。しかし、“古古古米”は一活性の対応にすぎません。

今の米情勢について、北村さんは「お米を作らせなかつた自民党政治の失敗だ」と指摘します。日本共産党の提案は、お米農家には生産に必要な保障をし、消費者には手ごろな価格で販売できる制度の創設です。

さらに北村さんは「かつて価格を保障する制度があったが、1995年に廃止された」と話します。国の保障があってこそ、私たちも安心してお米を買うことができます。しかも食料自給率を上げることにもなります。

小泉氏は、目先の対策だけではなく、なぜ抜本的な農業支援が言えないのでしょうか。軍事費は農業予算の4倍です。私たちの税金なのだから、軍拠ではなく農業支援に使うべきです。“武器ではなく、お米を作ろう”です!!